市立千歳市民病院

初期臨床研修プログラム

令和６年度（２０２４年度）

市 立 千 歳 市 民 病 院

CHITOSE CITY HOSPITAL

市立千歳市民病院卒後臨床研修プログラム　目次

1　当院臨床研修理念　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　当院の臨床研修プログラムの目標
3　プログラムの特色
4　診療実績（市立千歳市民病院ホームページ参照）
5　研修内容
6　研修ローテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
7　給与待遇等
8　居住環境（医師住宅）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
9　募集要項
10　研修医の指導体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

○　臨床研修の到達目標、経験すべき症候等及び達成度評価
1　到達目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
2　経験すべき症候等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
3　到達目標の達成度評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

・　研修医評価表Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
「A　医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価
・　研修医評価表Ⅱ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
「B　資質・能力」に関する評価
・　研修医評価表Ⅲ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
「C　基本的診療業務」に関する評価
・　臨床研修の目標の達成度判定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

○　各診療科研修プログラム

【市立千歳市民病院卒後臨床研修プログラム】

プログラム責任者：市立千歳市民病院副院長　福島　剛

1　当院臨床研修理念

医師としての人格をかん養し、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付ける。

2　当院の臨床研修プログラムの目標

医療を実践する上で、必要な姿勢・態度を身に付け、医師としての基本的価値観及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を養うこと。

一般的な診療において、頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得すること。

3　プログラムの特色

千歳や恵庭、安平、由仁などを含む地域の基幹病院として、救急・高度医療はもとより、小児・周産期医療の中核的な役割を担っており、様々な症例を経験できる。

当院は、病床数が190床と他の市中病院と比べると規模は小さい病院ではあるが、1診療科に1名の研修医の配属とすることにより、指導体制の充実を図り、また、診療科ごとの垣根がなく、病院全体で研修医を育てることとしている。

4　診療実績（市立千歳市民病院ホームページ参照）

5　研修内容

<table>
<tr><td rowspan="4">1年目</td><td rowspan="3">必修科目</td><td>24週</td><td>内科</td><td>呼吸器分野　8週
循環器分野　12週
消化器分野　4週</td></tr>
<tr><td>12週</td><td>救急</td><td>救急部門　8週
麻酔科　4週</td></tr>
<tr><td>各4週</td><td colspan="2">外科、小児科、産婦人科、精神科（他病院）、</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年目</td><td>4週</td><td>地域医療</td><td>一般外来及び在宅診療（他病院）</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td>48週</td><td colspan="2">内科、循環器科、消化器科、小児科、産婦人科、外科、救急、麻酔科、整形外科、眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科</td></tr>
<tr><td colspan="5">● 協力型臨床研修病院　千歳病院（精神科）、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院
● 臨床研修協力施設　向陽台ファミリークリニック（地域医療）</td></tr>
</table>

※精神科を除く必修科目は原則当院で研修し、やむを得ない場合に北海道大学病院、札幌医科大学附属病院で研修する。

6　研修ローテーション（一例）

1年次	研修期間	24週	12週	4週	4週	4週	4週
	研修科目	内科	救急 （麻酔科4週）	外科	小児科	産婦人科	精神科
	一般外来	6日		2日	2日		

2年次	研修期間	4週	48週
	研修科目	地域医療	選択科目
	一般外来	10日	

7　給与待遇等

研修報酬	【年収額の目安】 1年目　670万円　　2年目　750万円 ※通勤手当及び住宅手当を含む研修医月平均額から算出 月額報酬　　1年目　500,000円　　2年目　550,000円 その他手当　通勤手当（片道2㎞以上の場合は支給） 住宅手当（規定により支給） 時間外勤務手当（実績に応じて支給）
身分	常勤職員 ※医師法の観点から、プログラム以外での診療は禁止 ※地方公務員法の観点から、兼職（アルバイト）は禁止
勤務時間	平日　8：30～17：00（休憩：12：15～13：00）
休暇	有給休暇年12日、年末年始休暇6日、夏季休暇4日
当直	本人の希望に応じ、指導医とともに救急対応を行うに当たり、宿日直に準ずる勤務を行うことができます。
社会保険	健康保険、雇用保険、厚生年金、労働者災害補償保険
健康管理	健康診断　年1回
医師賠償責任保険	病院において加入（任意保険は個人加入）
研修医控室	個別デスク有り（LAN配備）
外部研修活動	学会、研究会等へ参加可能（予算の範囲内で参加費及び旅費支給）
研修医の妊娠・出産・育児に対する取り組み及び施設	院内保育所：有り（開所時間　8：00～19:00） ※研修医の子供に使用可能　夜間保育有り ※院内に体調不良時に休憩・授乳等に使用できるスペースあり

８　居住環境（医師住宅）

医師住宅	有り（全室エアコン完備）
負担額	3LDK：37,800 円　1LDK：11,900 円
※常勤医師の状況で入居できない場合などは、職員に準じ住居手当を支給します。	

９　募集要項

研修医の募集定員	１年次　２名
募集方法	公募
募集時期	6 月から 9 月中旬まで
選考方法	面接
提出書類	卒業（見込み）証明書、成績証明書、申込書（指定様式）、履歴書
試験会場	市立千歳市民病院
連絡・応募先	〒066-8550　千歳市北光２丁目１－１ 市立千歳市民病院　事務局総務課調整係 電話　0123-24-3000（内線 8234） FAX　0123-24-3005 E－Mail　byoinsomu@city.chitose.lg.jp

１０　研修医の指導体制

1	内科	院長	伊藤　昭英
2		診療部長	竹藪　公洋
3		主任医長	吉田　貴之
4	循環器科	診療科長	池田　大輔
5		主任医長	小岩　弘明
6	消化器科	診療科長	大久保　俊一
7		主任医長	平石　哲也
8	小児科	診療科長	中本　哲
9	外科	副院長	福島　剛
10		医長	許　理威
11		医長	谷　道夫
12	脳神経外科	診療部長	瀧川　修吾
13		主任医長	松本　亮司
14	産婦人科	上席医監	津村　宣彦
15		診療科長	越田　高行
16		医長	菊地　研
17	眼科	診療科長	田下　亜佐子
18	耳鼻咽喉科	診療科長	渡邉　一正
19	皮膚科	診療科長	大田　光仁
20	泌尿器科	診療部長	新藤　純理
21	麻酔科（救急担当）	診療科長	塚窪　俊裕
22		診療科長（救急室担当）	四釜　裕睦
23	病理(北海道大学病院)	教授	田中　伸哉
24	精神科（千歳病院）	理事長	佐藤　正俊

○　臨床研修の到達目標、経験すべき症候等及び達成度評価

１　到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

（１）　医師としての基本的価値観

ア　社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

イ　利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

ウ　人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

エ　自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

（２）　資質・能力

ア　医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

（ア）人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

（イ）患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

（ウ）倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。

（エ）利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。

（オ）診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

イ　医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

（ア）頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

（イ）患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。

（ウ）保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

ウ　診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

（ア）患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

（イ）患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

（ウ）診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

エ　コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

（ア）適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

（イ）患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすいことばで説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

（ウ）患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

オ　チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

（ア）医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

（イ）チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

カ　医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

（ア）医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

（イ）日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

（ウ）医療事故等の予防と事後の対応を行う。

（オ）医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

キ　社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

（ア）保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

（イ）医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

（ウ）地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

（エ）予防医療・保険・健康増進に努める。

（オ）地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

（カ）災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

ク　科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

（ア）医療上の疑問点を研究課題に変換する。

（イ）科学的研究方法を理解し、活用する。

（ウ）臨床研修や知見の意義を理解し、協力する。

ケ　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

（ア）急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

（イ）同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

（ウ）国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

（３）　基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

ア　一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロ説を経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については、継続診療ができる。

イ　病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・漸進的な診療ケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

ウ　初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

エ　地域医療

地域医療の特性および地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

２　経験すべき症候等

（１）　経験すべき症候（29 症候）

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う。

①ショック、②体重減少・るい痩、③発疹、④黄疸、⑤発熱、⑥物忘れ、⑦頭痛、⑧めまい、⑨意識障害・失神、⑩けいれん発作、⑪視力障害、⑫胸痛、⑬心停止、⑭呼吸困難、⑮吐血・喀血、⑯下血・血便、⑰嘔気・嘔吐、⑱腹痛、⑲便通異常（下痢・

便秘)、⑳　熱傷・外傷、㉑腰・背部痛、㉒関節痛、㉓運動麻痺・筋力低下、㉔排尿障害（尿失禁・排尿困難)、㉕興奮・せん妄、㉖抑うつ、㉗成長・発達の障害、㉘妊娠・出産、㉙終末期の症候

（２）経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

①脳血管障害、②認知症、③急性冠症候群、④心不全、⑤大動脈瘤、⑥高血圧、⑦肺癌、⑧肺炎、⑨急性上気道炎、⑩気管支喘息、⑪慢性閉塞性肺疾患（COPD)、⑫急性胃腸炎、⑬胃癌、⑭消化性潰瘍、⑮肝炎・肝硬変、⑯胆石症、⑰大腸癌、⑱腎盂腎炎、⑲尿路結石、⑳腎不全、㉑高エネルギー外傷・骨折、㉒糖尿病、㉓脂質異常症、㉔うつ病、㉕統合失調症、㉖依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

※　経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

（３）その他（経験すべき診察法・検査・手技等）

- 医療面接
- 身体診察
- 臨床推論
- 臨床手技

  ①気道確保、②人工呼吸（バック・バルブ・マスクによる徒手換気を含む。)、③胸骨圧迫、④圧迫止血法、⑤包帯法、⑥採血法（静脈血、動脈血)、⑦注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)、⑧腰椎穿刺、⑨穿刺法（胸腔、腹腔)、⑩導尿法、⑪ドレーン・チューブ類の管理、⑫胃管の挿入と管理、⑬局所麻酔法、⑭創部消毒とガーゼ交換、⑮簡単な切開・排膿、⑯皮膚縫合、⑰軽度の外傷・熱傷の処置、⑱気管挿管、⑲除細動
- 検査手技

  ①血液型判定・交差適合試験、②動脈血ガス分析（動脈採血を含む。)、③心電図の記録、④超音波検査
- 診療録

  診療録を適切に作成し、管理するために、

  ア　入院患者の退院時要約には、病歴、身体所見、アセスメント、プラン（診断、治療方針、教育)、考察等を記載する。

  イ　診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し管理する。

３　到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価表Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価表は臨床研修管理委員会で保管する。

（１）　「研修医評価表Ⅰ」

医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）に関する評価

①　社会的使命と公衆衛生への寄与

②　利他的な態度

③　人間性の尊重

④　自らを高める姿勢

（２）　「研修医評価表Ⅱ」

資質・能力に関する評価

①　医学・医療における倫理性

②　医学知識と問題対応能力

③　診療技能と患者ケア

④　コミュニケーション能力

⑤　チーム医療の実践

⑥　医療の質と安全の管理

⑦　社会における医療の実践

⑧　科学的探究

⑨　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

（３）　「研修医評価表Ⅲ」

基本的診療業務に関する評価

①　一般外来診療

②　病棟診療

③　初期救急対応

④　地域医療

研修医評価表Ⅰ
「A　医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

研修医名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
研修分野・診療科 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
観察者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 区分 □医師 □医師以外（職種名　　）
観察期間 ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ～ ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日
記載日 ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

	レベル１ 期待を 大きく 下回る	レベル２ 期待を 下回る	レベル３ 期待 通り	レベル４ 期待を 大きく 上回る	観察 機会 なし
A-１　社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	□	□	□	□	□
A-２　利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	□	□	□	□	□
A-３　人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	□	□	□	□	□
A-４　自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	□	□	□	□	□

※　「期待」とは、「研修終了時に期待される状態」とする。
　印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。特に、「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。

［　　］

研修医評価表Ⅱ
「B　資質・能力」に関する評価

研修医名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

研修分野・診療科 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

観察者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　区分　□医師　□医師以外（職種名　　）

観察期間 ＿＿＿＿年　　月　　日 ～ ＿＿＿＿年　　月　　日

記載日 ＿＿＿＿年　　月　　日

レベルの説明

レベル１	レベル２	レベル３	レベル４
臨床研修の開始時点で期待されるレベル（ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ相当）	臨床研修の中間時点で期待されるレベル	臨床研修の終了時点で期待されるレベル（到達目標相当）	上級医として期待されるレベル

1　医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

レベル１ ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ	レベル２	レベル３ 研修終了時で期待されるレベル	レベル４
■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。 ■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取扱いができる。	人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	モデルとなる行動を他者に示す。
	倫理的ジレンマの存在を認識する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
	利益相反の存在を認識する。	利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	診療、研究、教育に必要な透明性と不正行為の防止を認識する。	診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	モデルとなる行動を他者に示す。

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

2　医学知識と問題対応能力

再診の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="3">■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。
■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。</td><td>頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。</td><td>頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。</td><td>主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。</td></tr>
<tr><td>基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。</td><td>患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。</td><td>患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。</td></tr>
<tr><td>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。</td><td>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。</td><td>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。</td></tr>
</table>

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

3　診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え、以降に配慮した診療を行う。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="3">■必要最低限の病歴を聴取し、網羅的に系統立てて、身体診察を行うことができる。
■基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。
■問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
■緊急を要する病態、慢性疾患に関して説明できる。</td><td>必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。</td><td>患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。</td><td>複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。</td></tr>
<tr><td>基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。</td><td>患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。</td><td>複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。</td></tr>
<tr><td>最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。</td><td>診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。</td><td>必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。</td></tr>
<tr><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td></tr>
<tr><td colspan="7">□　　観察する機会が無かった</td></tr>
<tr><td colspan="7">コメント：</td></tr>
</table>

4　コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="3">■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。
■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。
■患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。
■患者の要望への対処の仕方を説明できる。</td><td>最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。</td><td>適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。</td><td>適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。</td></tr>
<tr><td>患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。</td><td>患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。</td><td>患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。</td></tr>
<tr><td>患者や家族の主要なニーズを把握する。</td><td>患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。</td><td>患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。</td></tr>
</table>

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

5　チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="2">■チーム医療の意義を説明でき、（学生として）チームの一員として診療に参加できる。
■自分の限界を認識し、他の医療従事者の援助を求めることができる。
■チーム医療における医師の役割を説明できる。</td><td>単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。</td><td>医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。</td><td>複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで実践する。</td></tr>
<tr><td>単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</td><td>チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</td><td>チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。</td></tr>
</table>

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

6　医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="4">■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。
■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。
■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。</td><td>医療の質と患者安全の重要性を理解する。</td><td>医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。</td><td>医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。</td></tr>
<tr><td>日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。</td><td>日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。</td><td>報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。</td></tr>
<tr><td>一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。</td><td>医療事故等の予防と事後の対応を行う。</td><td>非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。</td></tr>
<tr><td>医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。</td><td>医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。</td><td>自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。</td></tr>
</table>

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

7　社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

レベル１ ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ	レベル２	レベル３ 研修終了時で期待されるレベル	レベル４
■離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。 ■医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。 ■災害医療を説明できる 。 ■（学生として）地域医療に積極的に参加・貢献する。	保健医療に関する法規・制度を理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
	健康保険、公費負担医療の制度を理解する。	医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。
	地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
	予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	予防医療・保健・健康増進に努める。	予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。
	地域包括ケアシステムを理解する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。
	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

8　科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

<table>
<tr><td>レベル１
ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ</td><td>レベル２</td><td>レベル３
研修終了時で期待されるレベル</td><td>レベル４</td></tr>
<tr><td rowspan="3">■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。
■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。</td><td>医療上の疑問点を認識する。</td><td>医療上の疑問点を研究課題に変換する。</td><td>医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。</td></tr>
<tr><td>科学的研究方法を理解する。</td><td>科学的研究方法を理解し、活用する。</td><td>科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。</td></tr>
<tr><td>臨床研究や治験の意義を理解する。</td><td>臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。</td><td>臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。</td></tr>
</table>

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

9　生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

レベル１ ﾓﾃﾞﾙ･ｺｱ･ｶﾘｷｭﾗﾑ	レベル２	レベル３ 研修終了時で期待されるレベル	レベル４
■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
	同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）の重要性を認識する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。

□	□	□	□	□	□	□

□　　観察する機会が無かった

コメント：

研修医評価表Ⅲ
「C　基本的診療業務」に関する評価

研修医名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
研修分野・診療科 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
観察者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 区分 □医師 □医師以外（職種名　　）
観察期間 ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 ～ ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日
記載日 ＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

	レベル１ 指導医の直接の監督の下でできる	レベル２ 指導医がすぐに対応できる状況下でできる	レベル３ ほぼ単独でできる	レベル４ 後進を指導できる	観察機会なし
C-１　一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	□	□	□	□	□
C-２　病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	□	□	□	□	□
C-３　初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	□	□	□	□	□
C-４　地域医療 地域医療の特性および地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	□	□	□	□	□

※　印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。

［　　］

臨床研修の目標の達成度判定

研修医氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

A　医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）		
到達目標	達成状況： 既達／未達	備考
1　社会的使命と公衆衛生への寄与	□既　□未	
2　利他的な態度	□既　□未	
3　人間性の尊重	□既　□未	
4　自らを高める姿勢	□既　□未	
B　資質・能力		
到達目標	既達／未達	備考
1　医学・医療における倫理性	□既　□未	
2　医学知識と問題対応能力	□既　□未	
3　診療技能と患者ケア	□既　□未	
4　コミュニケーション能力	□既　□未	
5　チーム医療の実践	□既　□未	
6　医療の質と安全の管理	□既　□未	
7　社会における医療の実践	□既　□未	
8　科学的探究	□既　□未	
9　生涯にわたって共に学ぶ姿勢	□既　□未	
	□既　□未	
C　基本的診療業務		
到達目標	既達／未達	備考
1　一般外来診療	□既　□未	
2　病棟診療	□既　□未	
3　初期救急対応	□既　□未	
4　地域医療	□既　□未	

臨床研修の目標の達成状況	□既達　□未達
（臨床研修の目標の達成に必要となる条件等）	

年　　月　　日

市立千歳市民病院初期臨床研修プログラム

プログラム責任者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

市立千歳市民病院

各診療科研修プログラム

１　内科　・・・・・・・・・・・　１

２　循環器科　・・・・・・・・・・・　３

３　消化器科　・・・・・・・・・・・　４

４　小児科　・・・・・・・・・・・　５

５　産婦人科　・・・・・・・・・・・　６

６　外科　・・・・・・・・・・・　７

７　整形外科　・・・・・・・・・・・　８

８　救急（麻酔科）　・・・・・・・・・・・　９

９　眼科　・・・・・・・・・・・　10

10　泌尿器科　・・・・・・・・・・・　11

11　耳鼻咽喉科　・・・・・・・・・・・　12

12　皮膚科　・・・・・・・・・・・　13

13　精神科　（医療法人資生会　千歳病院）　・・・・　14

14　地域医療（向陽台ファミリークリニック）　・・・・　15

15　北海道大学病院（短期研修）　・・・・　16

16　札幌医科大学附属病院（短期研修）　・・・・　17

市立千歳市民病院　内科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　８週以上（内科一般・総合内科外来研修を含む）

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

脂質異常症などの内分泌・代謝疾患、肺癌や気管支喘息・肺炎などの呼吸器疾患といった患者に対して、専門診療を行っている。

さらに、様々な合併症・疾患をかかえる患者に対して全人的な診療を総合内科として行っている。

禁煙外来も木曜日の午後に開設し、医師の指導のもと患者に合わせた適切なカウンセリングや治療を提供しており、数多くの患者が禁煙に成功している。

患者の症状によっては、消化器科や循環器科など当院の他科と連携して診療を行うとともに、当院では対応できない治療を必要とする患者には、大学病院や他院とも連携を図り、最善の内科医療を提供している。

３　指導体制（指導医）

院長　　伊藤　昭英

診療部長　竹藪　公洋

主任医長　吉田　貴之

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟カンファレンス 病棟・ACU	病棟カンファレンス 病棟・ACU	内科外来	病棟・ACU	ジャーナルクラブ 病棟・ACU 上部内視鏡検査
午後	病棟・ACU	病棟・ACU 気管支鏡検査	病棟・ACU 内科カンファレンス	内科外来 気管支鏡検査	病棟・ACU

（２）　外来研修

指導医の下で、数名の患者の問診、診察、検査、オーダー、結果説明、処置・処方等を実際に体験し、評価のフィードバックを受ける。研修医の到達度に合わせて週に１コマまたは２コマを予定している。研修医の興味に合わせて専門検査（気管支鏡検査・上部内視鏡検査）の見学・補助を行う。

（３）　病棟研修

主治医と共に受け持ち患者を実際に診療し、基本的な診察法・検査法・治療法を学び、患者への対処方を研修する。病棟研修では救急患者・重症患者に対してファーストタッチから退院・さらに外来フォローまで臨床医として必要なスキルを身につけられるように研修医の到達度に合わせて研修を行う。重症患者に対してはAcute Care Unit（ACU）での全身管理の研修を行う。

市立千歳市民病院　循環器科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　１２週以上（内科一般外来研修を含む）

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

循環器科は、緊急性の高い循環器系疾患の患者を中心に、地域の 2 次医療を提供することが当科の大きな使命となっています。2 次救急を担当する地域基幹病院であるため、特殊な疾患に偏りすぎず、比較的 Common な疾患が集まります。

また、循環器系疾患は糖尿病を含む生活習慣病が背景にあることが多く、当科では糖尿病に対する診療も当科で行っていることが大きな特徴の一つです。

３　指導体制（指導医）

診療科長　池田　大輔

主任医長　小岩　弘明

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	新患外来	病棟(救急)	病棟(救急)	病棟(救急)	病棟(救急)
午後	救急	カテーテル検査	カテーテル検査	カテーテル検査	運動負荷

（２）循環器救急研修

救急外来では、上級医・指導医のサポート下で、急性心筋梗塞・急性心不全・急性大動脈解離などの循環器急性期疾患を経験する。

（３）一般外来研修

新患外来で週 1-2 回、指導医のサポート下で、心不全・狭心症・不整脈が疑われる患者の診察や、糖尿病を含む生活習慣病診療を学ぶ。

（４）病棟研修

担当患者は 2～5 名、救急や新患外来で自分が担当した患者を中心に担当する。担当患者を中心に心エコーをして自身で評価できることも目標とする。

市立千歳市民病院　消化器科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　４週以上（内科一般外来研修を含む）

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

消化器科では、上部・下部消化管、肝、胆道、膵疾患を中心とした消化器病全般の診療を行っている。外科との定期的なカンファレンス（症例検討）を行い、患者一人ひとりの病状に合った最良の治療を提供している。

当院は、消化器病学会認定施設、消化器内視鏡学会指導施設であり、専門医・指導医による研修医の教育も行っている。

３　指導体制（指導医）

診療科長　大久保　俊一

主任医長　平石　哲也

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来	病棟	病棟	外来	検査
午後	検査	カンファレンス	検査	検査	検査

（２）　外来研修

指導医・上級医の下で数名の患者の問診、診察、検査、オーダー、結果説明、処置・処方等を実際に体験し、評価のフィードバックを受ける。

（３）　病棟研修

主治医と共に受け持ち患者を実際に診療し、基本的な診察法・検査法・治療法を学び、患者への対処方を研修する。

市立千歳市民病院　小児科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　４週以上

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

千歳・恵庭医療圏は北海道の中でも人口が増加している数少ない地域で、医療圏内には2019年現在日本最大の児童数を有する小学校が存在します。千歳市民病院は、同医療圏において小児の二次救急患者を受け入れている唯一の施設であり、また年間500件前後の分娩がある主要な周産期施設でもあります。

小児科外来では、感染症などの一般診療をはじめ、アレルギー疾患、腎疾患、神経精神疾患、心疾患、内分泌疾患などに対する専門外来診療を行っています。

小児科病棟は18床と多くはありませんが小児人口の多さを反映して病床利用率は高く、感染症、気管支喘息発作、川崎病などの急性期疾患の診療のほか、慢性腎炎やネフローゼ症候群などの腎疾患の診療、食物アレルギーの経口負荷試験を行っています。MRI など鎮静が必要な検査における処置も小児科が行います。当院で出生した全ての新生児は小児科医が診察を行い、病児の診療も担当します。

救急外来では365日24時間体制で二次救急を担当し、救急車や一次救急施設からけいれん重積、腸重積症、重篤な喘息発作、アナフィラキシー、異物誤飲などの小児救急疾患を受け入れています。症例はまず当科に集まるため、研修に適した環境といえます。

３　指導体制（指導医）

診療科長　中本　哲（アレルギー専門医、新生児蘇生インストラクター）

嘱託医　内藤　広行（血液専門医）

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟研修 新生児診察	病棟業務 （外来研修）	外来研修 （病棟研修）	病棟研修 （外来研修）	病棟研修 新生児診察
午後	病棟研修 （外来見学）	新生児健診 周産期カンファレンス	病棟研修 （帝王切開） 小児科カンファレンス	病棟研修 （予防接種） （外来見学）	病棟研修 （外来見学）
随時	救急車対応、分娩（小児科立ち会い依頼のある場合）				

市立千歳市民病院　産婦人科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　４週以上

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

外来診療に関しては、良性・悪性腫瘍、感染症、更年期症候群など一般的な婦人科疾患や妊婦検診などを行っている。

入院診療では婦人科に関しては子宮筋腫・卵巣腫瘍・性器脱などの良性疾患を中心に手術などを行っている。産科に関しては年間の分娩件数は 450～500 件（約 100 件の帝王切開を含む）程度であり切迫早産や妊娠高血圧症候群の治療・管理などを行っているが、未熟児出産が予測される場合などは札幌・苫小牧の周産期センターに母体搬送している。

３　指導体制（指導医）

上席医監　津村　宣彦

診療科長　越田　高行

医長　　菊地　研

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟
午後	手術	病棟/カンファレンス	手術	検査	手術

（２）　外来研修

指導医の外来診察や患者対応に立ち会い、妊娠・分娩にいたる過程の理解を深め、産婦人科医として基本的な、臨床医として基本的な知識・技術・診察を研修する。

（３）　病棟研修

指導医の指導のもと、入院中の患者管理について研修し、妊産婦管理・診断・検査・手術、術後管理等を担当しながら、産婦人科診療に必要な技能､知識をより確実なものとする。

市立千歳市民病院　外科　研修プログラム

１　研修期間

必修科目　４週以上

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

外科では、消化器、呼吸器、乳腺、小児などの外科領域全般の疾患に対する手術を月曜日から金曜日まで毎日行っています。ガイドラインに基づき根治性や安全性を担保しながら積極的に鏡視下手術にも取り組んでおり、消化器悪性疾患に関しては 6 割以上を腹腔鏡下に行っています。

千歳市の外科救急体制の中心的役割を担っており、2 次救急患者に関しては 365 日、24 時間体制で受入れを行っています。

緩和ケア外来や緩和ケア病床の運用も外科で行っており、外科疾患のみならず緩和ケアを必要とする全領域の疾患に対する症状緩和の中心的な役割も担っています。

３　指導体制（指導医）

副院長　　福島　剛

医長　　許　理威

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診／外来診療	病棟回診／外来診療	病棟回診／外来診療	病棟回診／外来診療	病棟回診／外来診療
午後	手術	手術／消化器科合同カンファレンス	手術	手術／検査（CV ポート留置等）	手術／外科カンファレンス

（２）　外来研修

指導医・上級医の指導のもと、実際に患者の診察や対応を行い、外科的診断、治療における基本的手技、能力、知識の取得を目指していただきます。

（３）　病棟研修

指導医・上級医の指導のもと入院患者を受け持ち、手術前後の全身管理を中心に標準的な外科的管理能力の取得を目指していただきます。

市立千歳市民病院　整形外科　研修プログラム

１　研修期間

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

整形外科では、骨・関節などの骨格系、筋肉、神経系からなる「運動器」の痛みや機能を改善する治療を行っている。

千歳・恵庭市内や近郊の整形外科からの紹介により、入院や手術が必要となる外傷や脊椎、肩・膝の疾患の専門的な治療を行っているほか、札幌医科大学付属病院整形外科の各専門医師により、他部位の先進的な技術を必要とする手術治療を行っている。

３　指導体制

診療科長　神谷　智昭

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来/検査/病棟	外来/検査/病棟	外来/検査/病棟	外来/検査/病棟	外来/検査/病棟
午後	手術	手術	手術	手術	手術

（２）外来研修

・病歴聴取を学ぶ
・必要な検査指示を出す
・ギプス固定、創処置、縫合、局所麻酔、間接注射などの基本手技を指導医・上級医の下で学ぶ。
・救急症例（骨折、脱臼、多発外傷など）を経験する。
・指導医・上級医の診察、説明、治療を理解し、自ら診療を行えることを目指す。

（３）　病棟研修

入院から退院までを受け持ち、病棟での指示、処方、基本検査、周術期管理、リハビリ処方などを学ぶ。

（４）　手術

年間 700 件以上の様々な手術を実施しており、指導医・上級医の指導の下、助手及び執刀医として研修を行う。

市立千歳市民病院　救急（麻酔科）研修プログラム

１　研修期間

必修科目　１２週以上

選択科目　４週以上

※麻酔科における研修期間を、４週を上限として救急の研修期間とすることができる。

２　診療科の概要

当院は千歳市の二次医療機関（手術や入院を必要とする中等症以上の患者を担当）を担当しておりますが、実質的には三次医療機関相当の患者も受け入れしております。

救急外来にて約 1,600 件の救急車搬入を含む、年間約 7,000 名の患者を受け入れており、初期診療担当医および該当各専門診療科との連携による過不足のない診療を心掛けています。

また、walk-in 患者さんに関しては救急外来看護師による院内トリアージを実施することで緊急性の評価を行っています。初期診療を行い、入院が必要な場合は該当する専門診療科へ引き継ぎを行い、病院全体として救急をカバーする方針となっています。

３　指導体制（指導医）

副院長（救急室長）福島　剛

麻酔科 診療科長　　塚窪 俊裕

麻酔科 診療科長（救急室担当）　四釜 裕睦

４　研修内容

１）救急研修

研修医の皆さんには指導医（救急担当医）とともに救急車搬入された傷病者の診療を中心に担当していただき、緊急度を踏まえた初期診療を学んでいただきます。

また、入院に際して該当する専門診療科に引き継いだ後も、診療科の垣根を超えた指導を受けることができます。

平日（月曜日～金曜日）の日勤帯（午前 8 時 30 分～17 時）勤務を基本としており、研修医の希望に合わせて夜勤および休日の研修も可能となっています。

一人一人の患者さんを大切に問診や身体診察にも重きを置いた診療を行う方針です。

また、off-the-job training として外傷診療や CPR についての講義も適宜行っております。研修期間中に 1-2 回程度、全診療科医師の前で症例発表を行っていただきます。

２）麻酔科研修

全身麻酔管理を中心に、挿管から抜管までの研修を行うとともに、硬膜外麻酔、末梢神経ブロックを経験する。

市立千歳市民病院　眼科研修プログラム

１　研修期間

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

眼科では、眼科領域全般について診療を行っている。主な診療内容としては、白内障手術を中心に、緑内障の診断治療、加齢黄斑変性症に対する硝子体内注射、糖尿病網膜症などの網膜疾患のレーザー治療や、内反症（逆さまつ毛）、流涙症、ドライアイの治療なども行っている。

３　指導体制（指導医）

診療科長　田下　亜佐子

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	検査	手術	検査	手術	検査

（２）　検査

視力検査、眼圧測定、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、蛍光眼底造影検査、光干渉断層検査などの技術を習得する。

（３）　診断

疾患についての知識を身につける。

問診、検査結果を解釈・診断し、適切な治療計画を立てる。

（４）　治療・手術

指導医･上級医の指示の下でレーザー治療､内反症などの外眼部手術を行うほか、白内障手術の助手をする。

市立千歳市民病院　泌尿器科　研修プログラム

１　研修期間

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

泌尿器科では、尿の通り道（腎臓、尿管、膀胱、尿道）、男性の生殖器（前立腺、陰茎、精巣、精巣上体）及びホルモン産生臓器である副腎の病気の診断から治療までを全般的に行うとともに、慢性腎不全に対する血液透析・腹膜透析も行っている。

また、排尿障害に対する生活指導や薬物療法、がんの早期診断ならびに治療、がんに対する緩和治療、保存期腎不全患者への腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の提示とその実践などに積極的に取り組んでいる（腎臓外来の開設）。

３　指導体制（指導医）

診療部長　新藤　純理

診療科長　能中　修

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診 外来 透析回診	病棟回診 外来 透析回診	病棟回診 外来 透析回診	病棟回診 外来 透析回診	病棟回診 外来 透析回診
午後	検査	手術	手術	腎臓外来／ 病棟カンファレンス	隔週にて 外来カンファレンス 透析カンファレンス

（２）　外来研修

患者の病歴聴取、問診、基本的な診察、検査、診断、治療という一連の流れを指導医・上級医の下で経験するとともに、検査結果からの診断、治療法について考察し判断力を身に付ける。

（３）　病棟研修

指導医・上級医の指示に従い、入院患者を受持ち、基本的診療報を身に付け、周術期の管理及び泌尿器科疾患全般のマネージメントを学ぶ。

市立千歳市民病院　耳鼻咽喉科　研修プログラム

１　研修期間

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

耳鼻咽喉科では、中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺、慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、咽喉頭炎、頭頚部腫瘍などの診断や治療を行っている。

また、手術については、鼓膜チューブ挿入術、アデノイド切除術、扁桃摘出術、内視鏡下の鼻副鼻腔手術、声帯ポリープ切除術、頭頚部良性腫瘍切除術などを行っている。

３　指導体制（指導医）

診療科長　渡邉　一正

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	手術・検査	外来／病棟
午後	外来	検査	検査	手術・検査	外来

（２）　外来研修

外来において、患者の病歴聴取、問診、基本的な診察、検査、診断、治療という一連の流れ及び耳鼻咽喉科疾患の病態を指導医の下で経験する。

（３）　病棟研修

指導医・上級医の指導のもと、入院患者を受け持ち、診察、検査、手術を含めた治療を研修する。

市立千歳市民病院　皮膚科研修プログラム

１　研修期間

選択科目　４週以上

２　診療科の概要

皮膚科では、皮膚科一般に加え、多様な皮膚疾患に対する診療を行っている。

皮膚科の疾患としては、単純に目で見て皮膚に症状があれば全て対象となり、外からの刺激で起こる湿疹・皮膚炎、細菌・真菌やウイルスによる感染症、物理、化学的障害、様々なアレルギー性・炎症性疾患が挙げられる。

さらには、皮膚の腫瘍、遺伝的な異常、年齢的な変化による異常など、皮膚疾患は非常に多種であることが特徴である。皮膚の異常が内臓疾患のサインである場合もあり（これをデルマドロームといいます)、内科的疾患が見つかるケースもある。皮膚科では、これら皮膚に生じた変化を的確に診断し治療に当たっている。

また、アトピー性皮膚炎の短期教育入院も積極的に行っており、入院期間中に治療と同時に、患者様本人と御家族の方にも疾患についての正しい知識から治療、特に軟膏の塗り方まで、正しく理解し習得していただけるよう個別講義も行っている。

北海道大学病院皮膚科と密接に連携をとっており、最善の医療が受けられるよう努めている。

３　指導体制（指導医）

皮膚科診療科長　大田　光仁

※　指導医以外にも上級医が在籍

４　研修内容

（１）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟
午後	外来	外来	検査・手術	外来	外来

（２）　外来研修

・皮膚科診療の基本を身に着け、皮膚科特有の検査の理解を深める。

・ステロイド外用剤などの外用剤や抗ヒスタミン薬、副腎皮質ステロイドなどの使用方法を習得する。

（３）　病棟研修

・入院から退院までを受け持ち、病棟での指示、処方、基本検査、周術期管理、リハビリ処方などを学ぶ。

【医療法人 資生会　千歳病院 】　市立千歳市民病院　精神科　研修プログラム
※精神科の研修は、協力型臨床研修病院の医療法人資生会千歳病院で実施します。

1　研修期間
必修科目　４週以上

2　千歳病院の概要
昭和 53 年に精神科病院としてスタートし、精神科医療を中心として市内に介護老人保健施設や自立訓練施設を開設しております。
平成 18 年の病院新築移転を機に認知症治療病棟を開始し、物忘れ外来、訪問看護、精神科デイケア、リワークデイケアなどにも積極的に取り組み、良質な医療サービスを提供するよう日々努力しております。

3　指導体制（指導医）
理事長　佐藤　正俊
※　指導医以外にも上級医が在籍

4　研修実施責任者
院長　芦澤　健

5　研修内容
（1）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟
午後	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟	外来／病棟

※カンファレンスは水曜日の午後に実施
（2）　外来研修・病棟研修
・外来、入院治療を経て社会復帰に至る精神科医療の特徴を理解する。
・慢性期患者とともに、急性期入院患者の診療も経験する。
・向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬など）の作用・副作用・使用法について学ぶ。
・症状に応じ、指導医、上級医、他職種と協調し、薬物療法と心理社会的療法をバランスよく組合せた、治療計画を立案することを学ぶ。
・院内外のグループ活動や自助グループに参加することで、退院後の地域生活のイメージをつかみ、地域の社会資源についての理解を深める。

【向陽台ファミリークリニック 】市立千歳市民病院　地域医療　研修プログラム
※地域医療研修は、協力型臨床研修施設の向陽台ファミリークリニックと広域紋別病院のいずれかから、希望する研修先を選択し実施します。

1　研修期間
必修科目　４週以上

2　向陽台ファミリークリニックの概要
千歳市郊外にある向陽台地区で 2014 年、当時唯一のクリニックが閉院となり、地域の要請を受ける形で、2017 年に開業した。
向陽台地区は、初期の造成地エリアでは高齢化率が 30～40%、比較的新しいエリアであるクリニック周辺は 20%、一番新しいエリアでは 6%以下と、エリアごとの年齢構成に顕著な差があり、生活習慣病の高齢者から、予防接種を受ける赤ちゃんまで、患者の層は幅広い。
当院は「内科」、「小児科」を標榜しているが、患者様からは「家庭医」という認識で、どこに相談したらよいのか分からない悩み、心の問題なども含めたご相談をいただくことが多く、健康なときの「予防医学」から、病気になったときの「医療」、最期を迎えるときの「終末期ケア」まで、幅広く対応している。

3　指導体制（上級医）
院長　　中島　徹
副院長　木村　信之

4　研修実施責任者
院長　　中島　徹

5　研修内容
（1）　週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外部実習	外来診療	外来診療
午後	訪問診療	訪問診療	講義、勉強会	外部実習	訪問診療	―

（2）　外来研修
指導医と共に外来において患者の診療を行い､地域医療における基本的な診療･治療･患者及び家族との人間関係等について研修する。
（3）　訪問診療
指導医と共に、高齢者や在宅での治療を行っている患者の訪問診療を行い、各種医療・介護・福祉などの分野の専門家と連携し、患者個々に対する最良の医療を如何に提供するかについて研修する。
（4）　外部実習
クリニック周囲の薬局、介護事業所、訪問看護ステーション等での実習を行い、他職種の仕事内容や役割を知ることで、より深いレベルでの多職種連携が実践できるよ

う学習する。

【北海道大学病院】短期研修（逆たすきがけ研修）

1　概要

初期研修２年次（選択科目研修中）に、北海道大学病院で短期研修を受けることで、高度で専門的な診療を経験する。

2　研修実施責任者

教授　平野　聡

3　北海道大学病院の概要（ホームページから抜粋）

北海道大学病院は診療内容や外来・入院患者数など名実ともに北海道内における Center of Center の医療機関です。また、北海道大学病院では common disease に対する診療から難治性疾患に対する先進的な医療まで幅広く行われており、「北海道の最後の砦」の役割を果たしています。

- 病床数：944 床
- 医師数：611 人
- 新規年間外来患者数：128,096 人（令和 4 年度実績）
- 新規年間入院患者数： 132,250 人（令和 4 年度実績）

4　研修期間

１週間～３ケ月程度（診療科によって異なる）

5　診療科（定員に達している場合は研修不可）

内科Ⅰ、内科Ⅱ、消化器内科、循環器内科、神経内科、消化器外科Ⅰ、消化器外科Ⅱ、循環器・呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科神経科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、核医学診療科、リハビリテーション科、血液内科、救急科（宿直メイン）、救急科（日勤メイン）、腫瘍内科、病理診断科、感染制御部検査・輸血部、臨床研究開発センター、臨床遺伝子診療部、超音波センター

【各診療科の詳細は北海道大学病院ホームページ参照】

※北海道大学病院は選択科目に加えて必修科目についても連携病院となっているが、精神科を除く必修科目については原則当院で研修を行い、やむを得ない場合に北海道大学病院で研修を行うものとする。

【札幌医科大学附属病院】短期研修（逆たすきがけ研修）

1　概要

初期研修２年次（選択科目研修中）に、札幌医科大学附属病院で短期研修を受けることで、高度で専門的な診療を経験する。

2　研修実施責任者

病院長　土橋　和文

3　札幌医科大学附属病院の概要（ホームページから抜粋）

札幌医科大学附属病院は、医科系大学附属の総合病院として 29 診療科、932 の施設を有し、教育研修の場として医師の育成に貢献するほか、高度先進医療や診療体制の整備により道民の要望に応えるとともに、遠隔地の多い本道における地域医療の発展や災害時の受け入れ医療機関として大きな役割を担っています。

- 病床数：905 床
- 医師数：256 人
- 新規年間外来患者数：17,919 人（令和 4 年度実績）
- 新規年間入院患者数：17,380 人（令和 4 年度実績）

4　研修期間

１週間～３ケ月程度（診療科によって異なる）

5　診療科（定員に達している場合は研修不可）

消化器内科		免疫・リウマチ内科		循環器・腎臓・代謝内分泌内科
呼吸器・アレルギー内科		腫瘍内科		血液内科
脳神経内科		総合診療科		消化器・総合、乳腺・内分泌外科
心臓血管外科		呼吸器外科		整形外科
脳神経外科		産婦人科		小児科
眼科		皮膚科		形成外科
泌尿器科		耳鼻咽喉科		神経精神科
放射線治療科		放射線診断科		麻酔科
リハビリテーション科		高度救命救急センター		集中治療部
検査部		病理部		神経再生医療科
遺伝子診療科				

【各診療科の詳細は札幌医科大学附属病院ホームページ参照】

※札幌医科大学附属病院は選択科目に加えて必修科目についても連携病院となっているが、精神科を除く必修科目については原則当院で研修を行い、やむを得ない場合に札幌医科大学附属病院で研修を行うものとする。